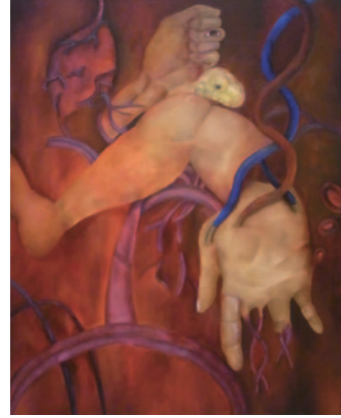


●入選



『途切れた希望』
前原涼輔(洋画3年)



『身体の仕組み』
桑名汰輝(洋画3年)



『思春期少女』
大城弥久(アートセラピー3年)



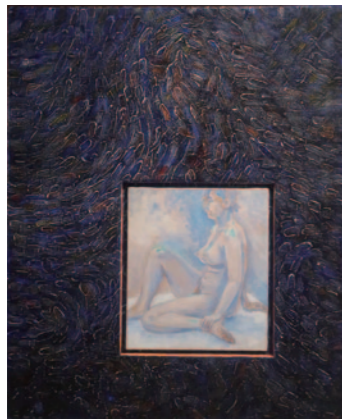
『emotion 11-I』
大原陽子(修士課程修了)



『WONDERING TRIAL(I)』
鷹野絵里(博士課程)



『手』 下倉剛史(卒業生)



『天竺女命』
山岸恒雄(博士課程修了)



『表皮』 北浦直美(卒業生)

TOPIC

第64回 全関西行動美術展

■大阪展 大阪市立美術館 2011.5.3(火)～8(日)
■京都展 京都市美術館 2011.5.17(火)～22(日)

●会友出品

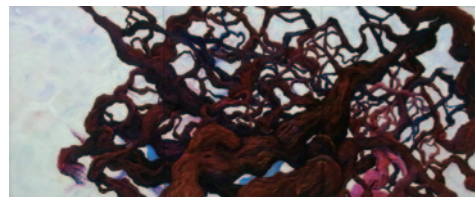


『いづく』 新谷友佳子(修士課程修了)

●会員出品
『海の空一春遠からじーI』
高井道夫(洋画講師)

●会員出品・洋画部
『チューリップ』
中村貞夫(洋画講師)
『Green Dub World』
西田周司(洋画教授)

●会員出品・彫刻部
『黒い太陽と月そして地球』
市川悦也(彫刻講師)



『Forest wave』 林恭子(卒業生)



■@bijutu 美術領域twitter/美術領域内の展覧会情報、イベント等をリアルタイムでご紹介。
■@zukagei 宝塚大学造形芸術学部twitter/学内イベントや学生の活動などの最新情報をツイート!

あーと通信 no.33【平成23年7月31日発行】 編集: 圓山茂子・上岡秀拓・山縣武・池尻篤志

■E-mail: s-maruyama@takara-univ.ac.jp ■美術News: http://bijyutsu.takara-univ.ac.jp
■学生作品データベース: http://bijyutsu.takara-univ.ac.jp/image-db



■ホームページ: http://www.takara-univ.ac.jp
■TEL: 072-756-1231/FAX: 072-758-7869

TOPICS

宝塚大学 造形芸術学部 アート・デザイン学科 美術領域

- 卒業生のお仕事 長尾悟さん(絵画)・松井優美さん(日本画)・竹下泰裕さん(洋画)
- 公募展 入選情報 第22回臥龍桜日本画大賞展/第61回西宮市展/第61回モダンアート展
第57回全関西美術展/第64回関西新制作展/第64回全関西行動美術展

TOPIC

粉吹き陶芸作家・長尾 悟さん 1995年卒業(絵画)



制作中の長尾さん



【粉吹き】
朝鮮半島から日本に伝わった陶器のこと。「粉を引いた(吹いた)ように白い」といわれたことに由来しています。粉引(こひき)の別名です。

陶芸家を志した転機は、阪神淡路大震災の時

1995年、卒業の年に私は阪神淡路大震災で被災しました。その震災の経験をきっかけに、今までの生活を見直し、田舎に住みながら生活することを選び、卒業後ご縁があった陶芸家に弟子入りして陶芸を志すことにしました。現在、私は三重の田舎に住み、食器を作りながら畑仕事などをして自然と共に生活しています。理解のあるパートナーと子供2人にも恵まれ、自然の中から子供たちや次の世代にどうやって未来を託すかを模索しています。

自分の作品はシンプルな白い食器。
ごまかしが効かない白だからこそ研究に余念がありません。

器には裸の自分が表現されているので、自分がどんな人間なのか自問自答しながら毎日轆轤(ろくろ)の上にある粘土と語らっています。そして器を購入していただいた方の家庭での食卓が、ほんのひと時でも豊かになる脇役になればと思っています。



年に数回のクラフト展が創作意欲を刺激する。

普段はお店に作品を送ることが多いのですが、クラフト展では購入していただくお客様と直接お会いでき、おしゃべりをして“自分の作品がどのように喜んでもらえるのか”が感じられる得がたい機会になります。最近も姫路で開催された「姫路アートクラフトフェア」に出展していました。



これからも作品を作り、その作品をより多くの人に喜んでいただけるように精進していきたいと思っています。この秋からも、蒲郡、浜名湖、八ヶ岳など全国各地のクラフト展に出展する予定です。またお近くでクラフト展がありましたら私が出展しているかもしれませんので、ぜひ覗いてみてください。

●長尾さんの作品が雑誌で紹介されました!

「この器で食べたくて。一日々のごはんがもっとおいしくなるニッポンの作り手の器たち」(出版:エフジー武蔵)



TOPICS (株)丹青堂勤務・松井優美さん 2011年卒業(日本画)

制作×就活

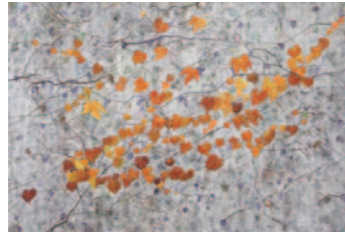


私の専攻していた日本画は、一つの作品を仕上げる為の取材やスケッチ、仕上げに至るまでに、1~2カ月を要します。その時間の合間をぬっての就職活動はとて大変でした。初めはマイナビやリクナビを活用し、大規模な企業説明会に参加していました。ジャンルを問わず、興味をもった企業をかっぱしから受けていましたね。でも次第に「自分の好きな事、勉強していた事を活かした職場に勤めたい。」と思い、頻りに就職資料室を利用し、相談に乗って頂いていました。そんな中、大学の紹介で画材を取り扱っている丹青堂さんを紹介していただき、採用に繋がりました。就職資料室では、面接の練習や履歴書の書き方等、親身になってアドバイスや相談に乗って頂いたので、本当に助かりました。

学生時代に取り組んだ日本画の感性が、意外な場所で役立つ瞬間に感動。



『秋桜』(2009年)



『秋めく』卒業制作賞(2011年3月)

私は学生時代、展覧会や公募展への出品に向けて制作活動をしていました。主に植物を中心に、花の美しさや生き生きしている様子を表現できるように心がけていました。植物にはそれぞれ季節が関わってきていると思うんですよ。そんな季節感も大切に作品にこめていました。今の売り場では、画家さんが描いた季節ごとに飾る植物の色紙飾りの販売等もしています。お客様からそのような商品を飾る相談を受けた時に、私が制作にこめていた想いが役に立つ瞬間があり、幸せを感じます。今は仕事を覚えるのに必死で制作活動は休止していますが、落ち着いたら再開したいと考えています。

笑顔をとやさずに。

最初の1ヶ月半は研修期間で店舗をあちこち回っていましたが、今は梅田阪神百貨店内にある売り場で勤務をしています。百貨店という事で、百貨店のしっかりとした接客や職場マナー等、お客様に接する対応の徹底に気を配りながら、常に“笑顔”をとやさずに接客しています。そんな中でお客様に感謝していただいたり、笑顔を返していただいたりした瞬間が1番幸せな気持ちになりますね。日本画材などには馴染みがあるので取り扱いやすいのですが、今の職場はあまり馴染みのない書画材を中心に取り扱っている店舗なので、職場の上司や先輩社員の方々に、丁寧に教えてもらいながら猛勉強中です。やはり商品知識が頭に入っていないと、困惑したり曖昧な接客になったりと、“笑顔”での接客、対応が難しくなってしまうので、早く覚えていきたいと思っています。



日本画材の売り場をチェックする松井さん



TOPICS (株)京タンス家具店勤務・竹下泰裕さん 2007年卒業(洋画)

仕事×私事



大学卒業後、大学院へ進学するという選択肢もあったのですが、“大学だけの世界から飛び出したい!”という気持ちが強く、今とは違う職場ですぐ就職することを選択しました。社会人1年目は働いて家に帰って寝ての生活ってやっぱりもの足りなくて、次の日が仕事でも、時間の許す限り絵筆を握っていました。学生時は制作することが日常でしたから、その感覚でマヒしていて、仕事と制作、生活のアンバランスを感じました。ゆっくりできる一人の時間があると、自分の人生で何に重きを置いて、何に時間とお金をかけてやりたかったのかということを考える時期がありました。

考え方の転換、自分へ還元する。

今は京都市桂川にある株京タンスで接客・販売の仕事をしています。お店ではタンスやソファなど、家具全般を取り扱っています。ブランドの高級家具、職人さんの手作りの家具やオリジナルブランド商品もあります。



『ホツレトムスバレ』

職場の上司は「ヒューマンエラーをなくそう!」ってよく言うんです。特別なことをするより、誰でもできることを手を抜かずにしっかりやりぬくこと、挨拶や言葉遣いなどの基本的な部分を身につけることを教わりました。これって会社だけでなくアートの世界でも大事なことだと思いました。仕事を辞めようと思った時期もありましたが、上司やメーカーの方々と関わっていくうちにこのままサラリーマンになるにしても、アーティストになるにしても得るものは大きいと感じるようになりました。

アートフェアで学んだ“人が人を呼ぶ”ということ。

あるアートフェアに参加した時、参加者がスタッフにスカウトされたり作品が売れたりする様子を目の当たりにしました。そういう人って、名刺を渡したり、展覧会後には来訪者へメールを送ったり、普通、会社で教わるような社会人としての立ち振る舞いをしっかりやっている人が多いことに気が付きました。それに、作品にも隙がないんです。特別な技法を使っているわけではないけれど、手を抜かずにしっかり仕上げているんです。そんな作品には表面を触ったら壊れそうな、手袋をはめないといけないようなオーラがあります。勢いも大事だけど、付け焼刃では意味がないんだと思いました。それに、作品が売れてなくても人がたくさん集まっていました。特に小さいブースだと人が集まってくると作品も良さそうに見えてきます。人が人を呼ぶんです。人と人の関係性は社会、アート、日常生活やありとあらゆる世界で同じように大事なことだと思いました。これからもしばらくは仕事と作品制作を両立して、毎日眺めても自分でもいなくなって思える作品ができたら、個展などの行動に移そうと考えています。

【在学生へのメッセージ】

実技や講義で自分で考えて生み出す訓練を受けているから、困難を乗り越える知恵と知識、人の気持ちを理解しようとする人は身につけているはず。どんな道に進んでも自信を持ってください!



『we love each other』

TOPICS 第22回 臥龍桜日本画大賞展

岐阜県高山市 飛騨位山文化交流館 2011.8.27(土)~9.11(日)

◎奨励賞



『鋭い視線』 中川真一(修士課程2年)

TOPICS 第61回 西宮市展

西宮市立市民ギャラリー 2011.7.7(木)~17(日)

◎西宮芸術文化協会賞



『鋭い視線』 前原涼輔(洋画3年)

◎西宮市展若手奨励賞



『鏡の中へ』 秦弘明(洋画4年)

TOPICS 第61回 モダンアート展

京都展 京都市美術館 2011.5.24(火)~29(日) 横浜展 横浜市民ギャラリー 2011.9.5(月)~10(土) ほか

●入選



『もう一つの冬』 中島彰良(洋画4年)



『ゆれる、まわる』 阿部れい(洋画3年)



『黒No2』 一羽悖(博士課程)

- 会員出品/『白い影』加藤勝久(洋画教授)
- 準会員・入選/『Phantom』山縣武(助手)

TOPICS 第57回 全関西美術展

大阪市立美術館 2011.7.5(火)~18(月)

●入選(洋画部門)

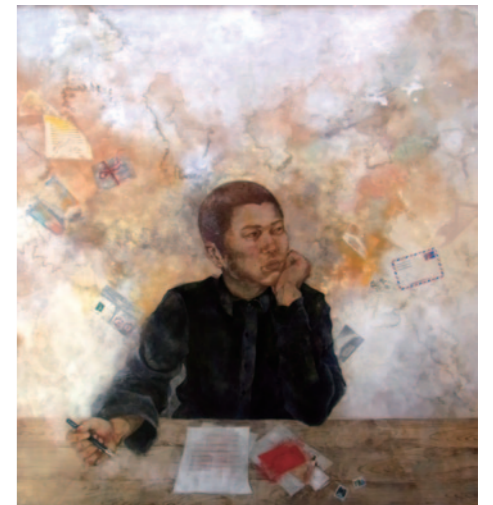


『遊びの世界』 中島彰良(洋画4年)

●入選(日本画部門)



『探しもの』 志垣玲奈(卒業生)



『思いの丈』 池尻篤志(助手)